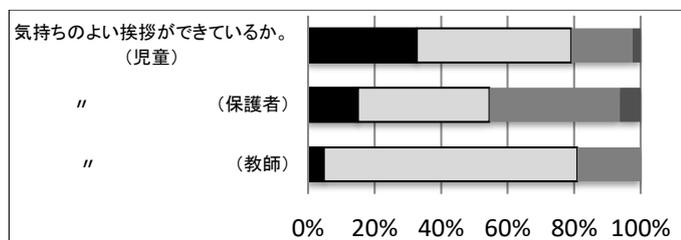


※ 肯定度：「あてはまる」「おおむねあてはまる」と回答した割合

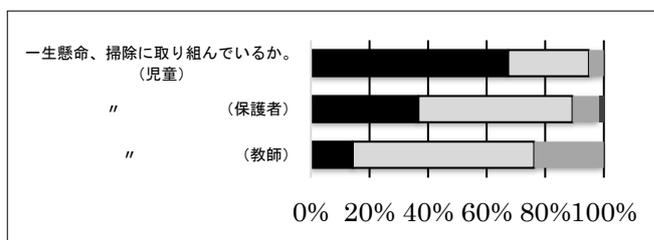
■あてはまる ■おおむねあてはまる ■少しあてはまる ■あてはまらない ■無回答

<豊かな心の育成に関すること>

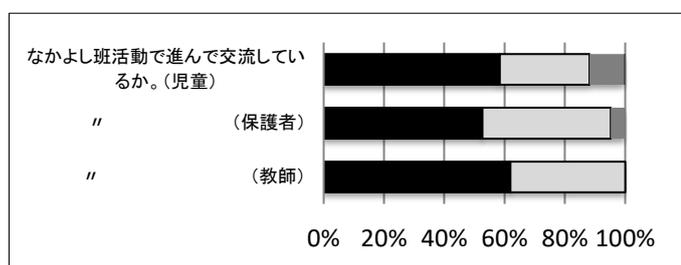
設問1 肯定度/児童79%、保護者55%、教師81%



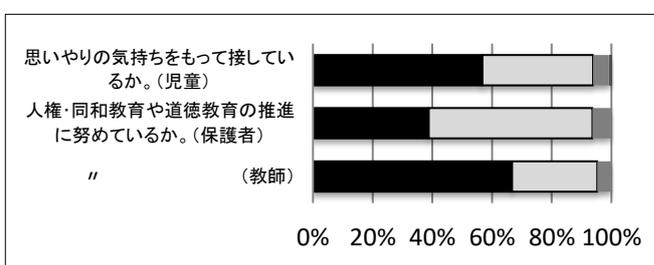
設問2 肯定度/児童95%、保護者89%、教師76%



設問3 肯定度/児童88%、保護者95%、教師100%



設問4 肯定度/児童94%、保護者94%、教師95%



考察

挨拶は、人と人との信頼関係を築くための最初のステップです。相手を認識し、大切に思っていることを伝える行為であり、特に社会的な場面で重要です。全ての児童が挨拶の大切さを理解し、主体的にできることを目標に掲げ、指導に取り組んできましたが、その成果が徐々に出てきているように感じます。現状では、あまり挨拶できない児童もいますが、これまで実施してきた取組を継続して、改善に努めていきたいと考えております。また、挨拶は、学校だけでなく家庭での習慣づくりも必要です。家庭や地域社会と連携しながら、いつでも、どこでも、だれにでも気持ちよく挨拶できる児童を引き続き育てていきたいと考えております。

児童が健康で安全な学校生活を送るためには、清掃活動を通して環境を整えることがとても重要です。本校では、なかよし班で清掃活動を行っており、異年齢の友達と協力して行うことを大切にしてきました。2学期には、「そうじ交代集会」でビデオ放送をし、掃除の仕方や決まりを確認する清掃指導を行いました。また、「そうじびかびか賞」を毎学期実施し、掃除を頑張っている児童を賞賛する機会を設けるなど、掃除への意欲を高める取組も行っています。今後も継続して、黙々と一生懸命掃除ができるように指導していきます。

今年度も、学校行事や児童会活動などを全校児童が集まったり、保護者を招待したりして実施できました。その中で、児童が互いのよさや個性を認め合い、支え合う仲間意識を育めるように取り組んでいます。また、1年生から6年生までの異学年で編成した異年齢集団活動にも力を入れております。普段から清掃活動で交流をしたり、月に1回のなかよしタイムで一緒に遊んだり、2学期にはウォークラリー遠足をするなど、様々な活動を通して、異年齢の友達との関わり方や、協力して活動する態度などを学んでいます。特に高学年がリーダーとして引っ張る姿や下学年に優しく教える姿は、下学年のよき模範となり、代々、児童に受け継がれています。また、普段の交流を通して仲良くなった異年齢の友達と昼休みに一緒に遊ぶ姿などもみられます。

学校としては、思いやりのある心を育てる教育の一環として、今後も継続して異年齢集団活動や交流の充実を図っていきます。

4月より、教職員の言葉遣いや教室環境について共通理解を図るなど、教職員全員で足並みをそろえて人権・同和教育に取り組んでいます。9月には人権・同和教育参観日を設定し、道徳科や特別活動を中心に参観授業を行いました。各学年の発達段階に応じて人権・同和教育に視点を置いた学習を行い、誰に対しても差別を許さない心情や差別をなくしていこうとする行動力の育成につなげていきたいと考えています。また、その行動の原動力となる自尊感情が向上するように指導を行いました。併せて、人権集会を行い、人権委員会による人権劇を通して、相手を思いやった言葉遣いについて考えました。人権標語や人権メッセージの紹介や、絵本の読み聞かせを通して、自分や友達を大切にしようとする気持ちを育みました。

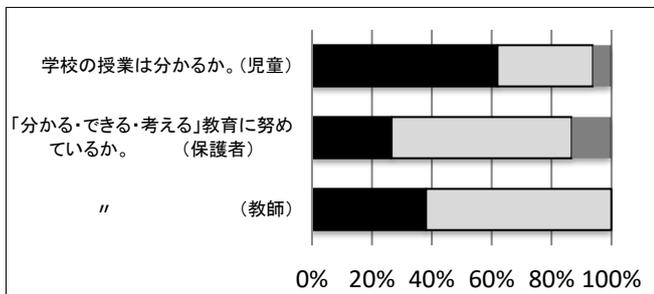
日々の生活の中で、機会を捉えて指導を行い、他者を思いやり、一人一人を尊重できる心豊かな麻生っ子の育成に今後も努めていきます。

学校運営協議会委員の所見

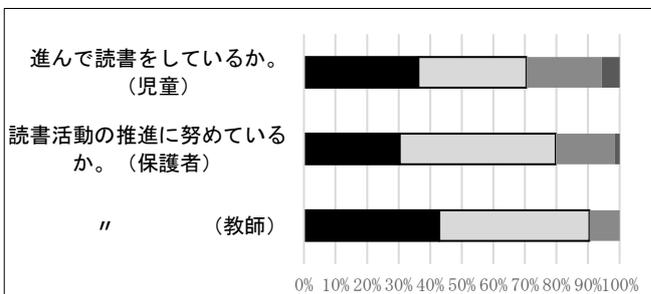
- 子どもたちが顔を覚えてくれたことで声を掛けてくれることが増えた。関わりが増えたことで互いに挨拶をしやすくなっている。
- 挨拶はもっとできるようになればいいと感じることがある。

<学習指導の充実に関すること>

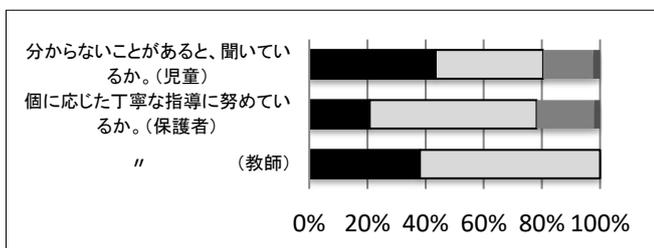
設問5 肯定度／児童 94%、保護者 87%、教師 100%



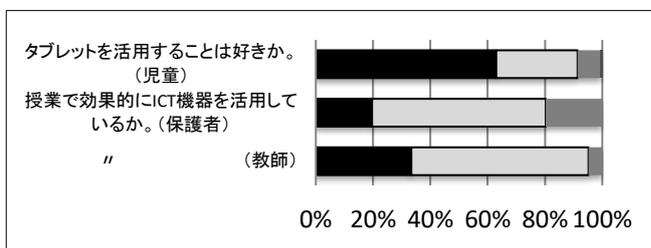
設問6 肯定度／児童 71%、保護者 80%、教師 90%



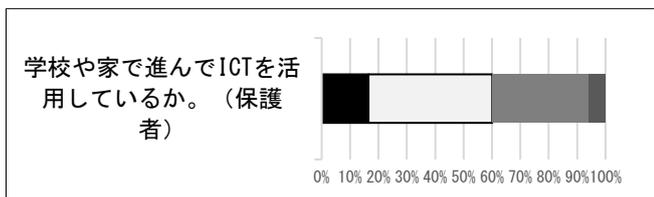
設問7 肯定度／児童 80%、保護者 78%、教師 100%



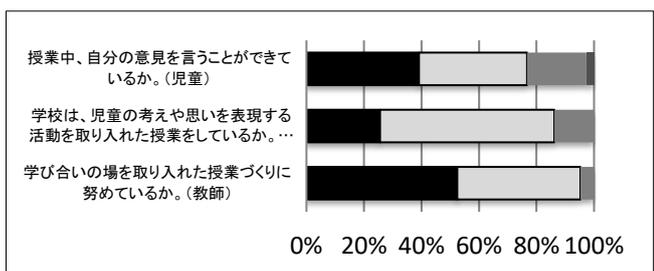
設問8-1 肯定度／児童 91%、保護者 80%、教師 95%



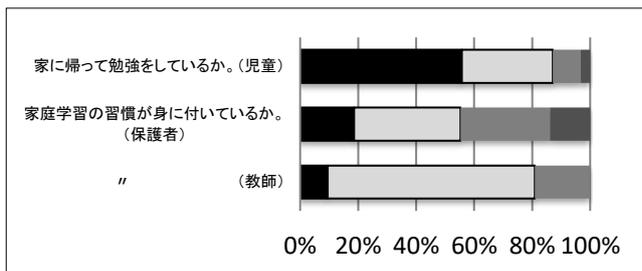
設問8-2 肯定度／保護者 60%



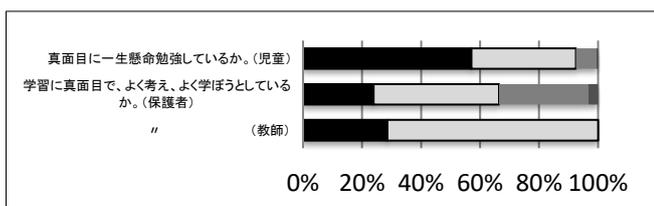
設問9 肯定度／児童 77%、保護者 86%、教師 95%



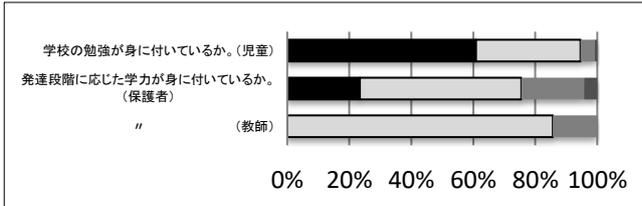
設問10 肯定度／児童 87%、保護者 55%、教師 81%



設問11 肯定度／児童 92%、保護者 66%、教師 100%



設問12 肯定度／児童 95%、保護者 76%、教師 86%



考察

日々の授業では、主体的・対話的な学びを大切にして授業改善をしながら取り組んでいます。毎時間「めあて」を提示し、何を学ぶのかを意識して学習課題に取り組めるようにしています。また、分かったことや考えたことを振り返る活動を行い、学習の積み重ねを大切にしています。そして、「学び合い」が深まるように、「麻生っ子ス

マイルトーク」をはじめとする考えを表現しやすい場の設定を考え、学び合い、高め合えるような指導を続けています。今後も、児童一人一人の学習状況や理解度を把握し、個に応じた指導ができるように配慮していきます。

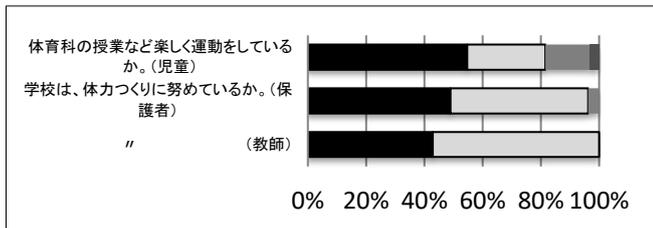
児童に家庭学習の習慣や発達段階に応じた学力が身に付いているかという点では、保護者の評価が昨年度よりも少し高い値になっていますが、児童との認識に差があり、児童より20～30%低い値になっています。学校の取組として、基礎的・基本的な知識及び技能の習得を図るための継続的な指導や授業での理解を深める工夫に努めたり、家庭学習の質の向上と習慣化を図ったりしています。学力は、一朝一夕で身に付くものではありません。日々の継続が成果へとつながります。児童が継続して学習できるよう、今後も家庭と学校が連携しながら、取り組んでいきたいと思ひます。

授業におけるタブレット端末の活用や毎週のタブレットタイムを通して、児童のタブレット端末を使う技能が身に付いてきています。今年度はギガタブレットの更新があり、新しいタブレットを手にして、児童のICT機器への関心が高まっています。

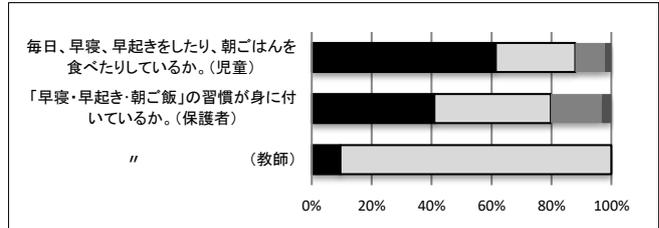
一方で、自分本位で端末を使用する様子も見られます。児童が適切にICT機器を活用できるように、タブレット端末使用上のルールの徹底や情報モラル教育の充実にも努めていきたいと思ひます。

<健やかな体と強い心の育成に関すること>

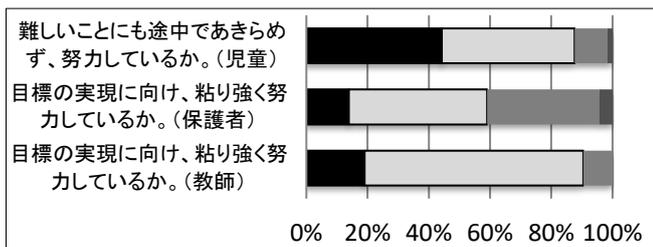
設問 13 肯定度／児童 84%、保護者 96%、教師 100%



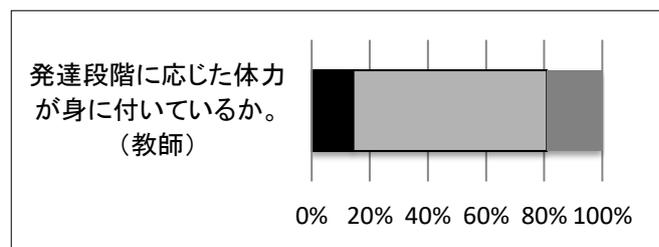
設問 14 肯定度／児童 88%、保護者 80%、教師 100%



設問 15-1 肯定度／児童 88%、保護者 59%、教師 90%



設問 15-2 肯定度／教師 81%



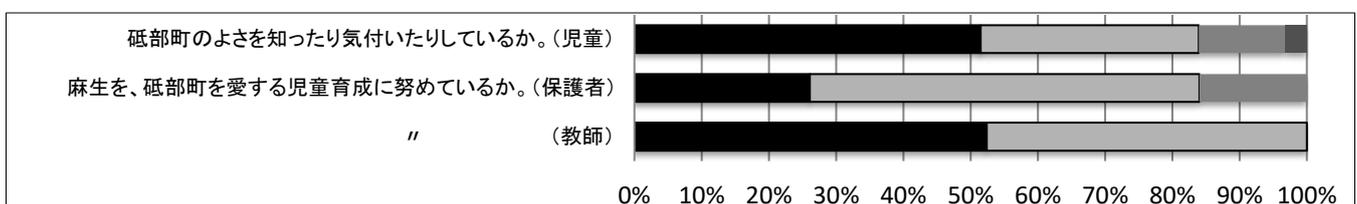
考察

本校の児童は、外で遊ぶなど運動に親しむ児童が多くいます。アンケート結果からも体力づくりにおいて、児童・保護者・教職員ともに肯定的な評価を得ています。また、本校の令和7年度の5年生の体力テストの結果は、男子が8項目中4項目で、女子が8項目中5項目で全国平均を上回っています。御家庭でも「おうちで体力アップカード」に取り組んでいただくなど学校や家庭で運動に親しむ機会が多いことが体力向上の一端を担っていると思ひます。小学校の時期は、様々な運動の技能を身に付ける貴重な時期です。多様な運動を経験する機会をもちつつ、運動量を確保するという点でさらに授業改善にも努めていきます。加えて、粘り強く努力する態度を体育科だけでなく、他教科や家庭生活でも発揮できるような声掛けや指導を考えていきます。6年生の水泳や陸上練習、大会についても様々な御意見をいただいております。大会の実施や参加の形式については、その都度検討し、次年度に生かしています。

「早寝・早起き・朝ご飯」の習慣は、規則正しい生活習慣を身に付けるうえで重要です。全国学力・学習状況調査では、「朝食を毎日食べている児童は、平均正答率が高い」「十分な睡眠を取っている児童ほど、授業中の集中力や意欲が高い」といった傾向が報告されています。本校では、毎月「すこやかウィーク」を設定し、具体的な目標を掲げて、児童が正しい生活リズムを意識して生活できるよう努めています。今後も、保護者と一体となり、元気な麻生っ子を育てていきたいと考えております。

<麻生を、砥部町を愛する子どもの育成に関すること>

設問 16 肯定度／児童 84%、保護者 84%、教師 100%



考察

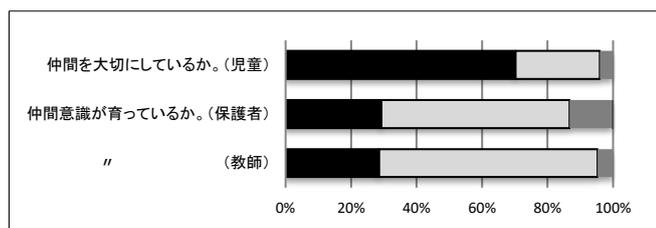
昨年度より導入されたコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)の内容を精選して行うことで、より地域と連携を深めた活動を実践できました。とべ動物園など、校区の様々な施設に校外学習へ出掛けたり、校区に住む地域の方をゲストティーチャーとして招き、学習会を開いたりしました。児童の肯定度は昨年と同程度ではありますが、児童自身が関わってくださった地域の方に自分から声を掛けるなど、以前よりも地域に親しみを感している姿がよく見られます。今後も、麻生を、砥部を愛する児童の育成にさらに努めていきます。

学校運営協議会委員の所見

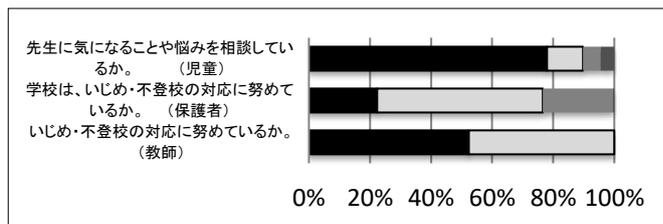
- 総合的な学習の時間の授業に参加した時、どの児童もすごく意欲的にしていた。
- 学校外でのつながりができることでよりよくなっていると感じる。

<生徒指導の充実に関すること>

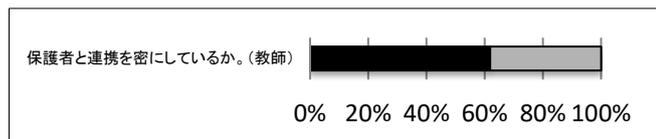
設問 17 肯定度／児童 96%、保護者 87%、教師 95%



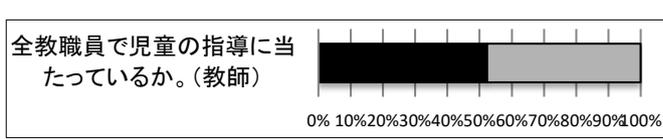
設問 18-1 肯定度／児童 90%、保護者 77%、教師 100%



設問 18-2 肯定度／教師 100%



設問 18-3 肯定度／教師 100%



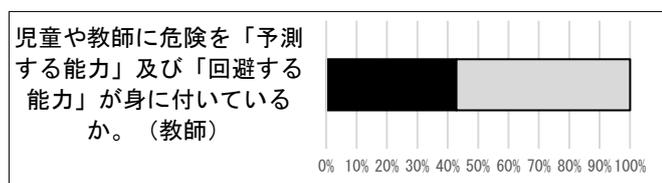
考察

学校の取組としては、年度当初、生活目標や校内・校外生活等について全教職員で見直し、共通理解を図って指導に当たることができるようにしました。その見直した「いじめ防止基本方針」は、ホームページでも公開しております。また、生徒指導部会を定期的に関き、児童の様子について情報交換をし、いじめ等の未然防止に努めたり、児童理解を図ったりして、今後の対応に生かしています。

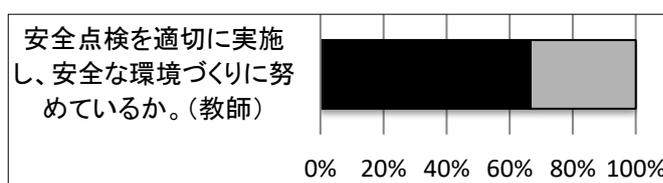
さらに、いじめの問題に関しては、初期対応が非常に大切です。初期対応を丁寧にするには、相談しやすい雰囲気づくりにもつながってきます。信頼される学校を目指し、児童、保護者とよりよいコミュニケーションを図っていきたくと考えています。そして、相談しやすい雰囲気のある「チーム麻生」を目指して取り組んでまいります。

<安全・安心な学校づくりの推進に関すること>

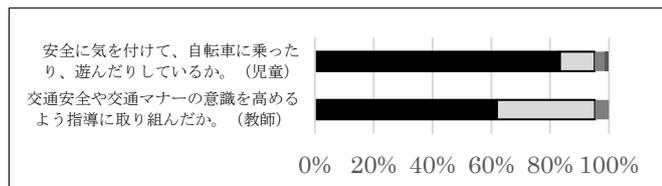
設問 19 肯定度／教師 100%



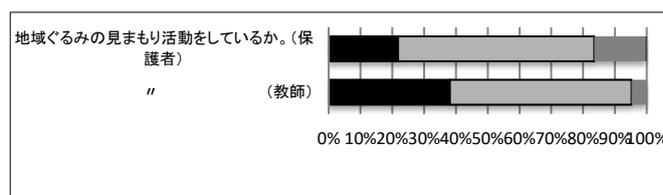
設問 20 肯定度／教師 100%



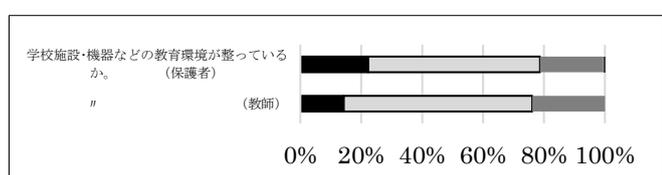
設問 21 肯定度／児童 95%、教師 95%



設問 22 肯定度／保護者 84%、教師 95%



設問 23 肯定度／保護者 79%、教師 76%



考察

地域での交通安全・交通ルールを守ることにに関して、ほとんどの児童が守られています。しかし、交通ルールが守られていない児童も若干名いるのが現状で、地域の方から注意を受けることもありました。学校では、毎月1回、「交通安全ビデオ」をテレビ放送し、自転車の乗り方や地域での交通ルールを守ることなどの指導を継続して行っています。また、麻生校区の児童は、中学生になると全員が自転車通学になります。低学年のときから、地域での交通ルールにはどのようなことがあるのか、どのように守ればよいかなどを教えることが非常に大切です。今後も、継続して指導を行っていきます。

また、見守り活動に関しては、教職員が、毎月1回登校指導をしております。また、教職員だけでは、全ての危険箇所の見守りができないため、地域の方が進んで活動に参加してくださっている場所もあります。本校では、昨年度から、コミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)を導入しております。そのため、学校と地域住民等が力を合わせて学校の運営に取り組むことが可能であり、見守り活動についても地域への協力を依頼して、安全・安心な学校づくりを推進していきたいと考えています。

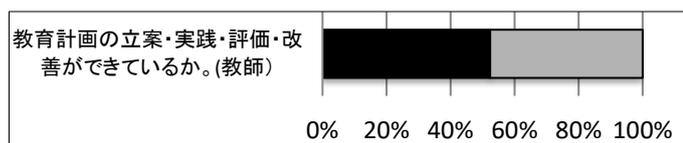
校内の施設・設備については、安心・安全を第一に考えるとともに、できるだけ快適な学びの環境を整えるように努めています。教職員や児童の複数の目で確認し、不備を発見したら、迅速に修繕や使用禁止などの対応をしています。今年度は、保護者の方がお気づきの点を御示唆いただき、対応したことで、より安心・安全な学びの環境を整えることができました。

学校運営協議会委員の所見

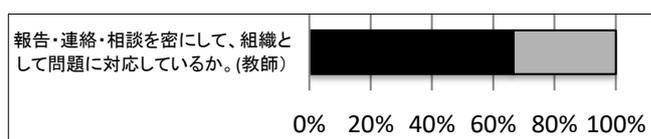
- 自転車の乗り方が気になることがある。例えば、2列になっていることもある。
- まもるくんの家が増えた。地域で子どもたちを見守る体制ができています。

<校内組織運営の充実・事務管理に関すること>

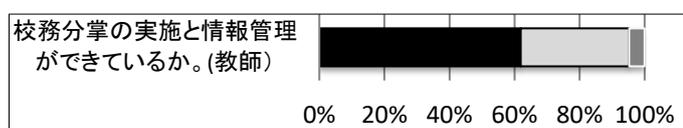
設問 24 肯定度/教師 100%



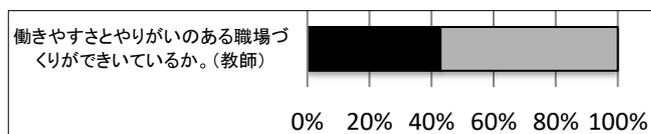
設問 25 肯定度/教師 100%



設問 26 肯定度/教師 95%



設問 27 肯定度/教師 100%



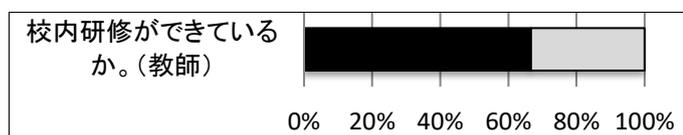
考察

学校の教育目標の具現化に向けた教育計画の立案・実践・評価・改善のために、今年度も教職員アンケートの結果や学校運営の反省を職員会議で共有し、改善策を話し合うことで、全教職員で共通理解を図りました。

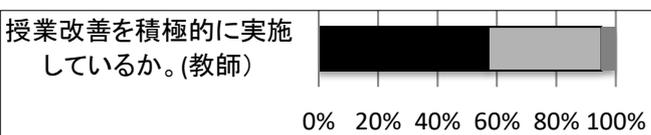
児童の様子等については、生徒指導部会を定期的に開いて情報交換を行っています。また、放課後の職員室では、日々、学年間だけにとどまらず多くの教職員間で報告や連絡、相談が行われており、連携が取りやすい環境づくりができています。

<教職員の資質・能力の向上に関すること>

設問 28 肯定度/教師 100%



設問 29 肯定度/教師 95%

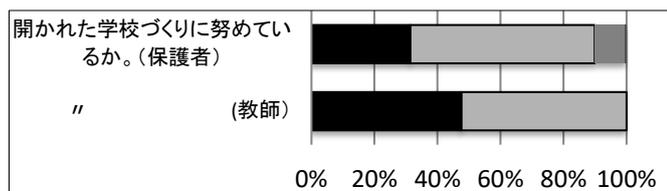


考察

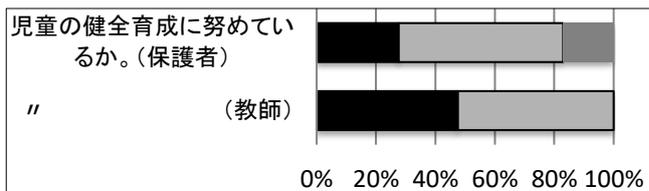
研究主題を「多様なかかわりを通して、豊かな心を育む学びの実現」とし、全教育活動を通して人権・同和教育の研究に取り組みました。教職員の人権意識や指導力を高める研修や人権・同和教育の視点を明確にした授業改善を行いました。また、友達や地域の方々と関わりながら豊かな心を育む教育活動の充実について様々な取組を行いました。研修で学んだことを授業や子どもたちとの関わりに生かし、児童のよりよい成長につながるよう努めています。今後も校内研修を充実させ、研究を深めていきたいと思えます。

<開かれた特色ある学校づくりの推進に関すること>

設問 30 肯定度／保護者 90%、教師 100%



設問 31 肯定度／保護者 83%、教師 100%



考察

開かれた特色ある学校づくりを目指して、昨年度よりコミュニティ・スクール(学校運営協議会制度)が導入されたこともあり、地域の方も一緒に活動する学習を1学期から積極的に行ってきました。1年生は、幼稚園の年長児を招いて「秋ランド」を行いました。2年生は、町探検で見学やインタビュー活動を行って地域の方々と触れ合うことができました。3年生は、とべ動物園マイスターになるため、とべ動物園に見学に行ったり、来園者へ紹介をしたりしました。4年生は、防災士の方とフィールドワークを行って防災マップを作ったり、高齢者の方や障がいのある方との交流会を開いたりしました。5年生は、地域やJAの方々の協力を得て、田植え・稲刈りを体験するとともに、感謝祭を行いました。6年生は、ゲストティーチャーを招き、キャリア教育の一環として様々な職業の方から働くことについて学ぶ学習を行いました。学校の教育活動や児童の様子については、学校便り、学年通信、保健便り、ホームページ等を通じて逐次、発信しております。

今後も、学校・家庭・地域の連携を図りながら、学校運営に努めていきたいと思えます。更に、今年度も、地域の方や児童館など様々な方面からの御意見をいただき、児童の健全育成に努めてきました。これからも連携を密にし、児童の健全育成に努めてまいります。

登校についてのご意見をいただきました。全員が安全に登校できるように年度当初の通学班長会で班長旗の使い方等を更に丁寧に伝えていきたいと思えます。地域での見守りについても今後とも御協力をお願いします。また、登校時間については、昨年度の途中より7:35~7:45に学校に到着するように変更しています。年度当初はどの班も規定の時間で登校していました。分団会において再度時間の確認を行いたいと思えます。

学校では、家庭と学校との連携を密で確実なものとするために、家庭や地域からの声に「迅速に」「誠実に」お答えしていくことを前提としながら、教職員全員で役割分担をして対応することを目指しています。しかしながら、個別のことについては、十分な対応ができておらず、保護者や地域の方々にご迷惑やご心配をおかけしていることもありました。今後もそれらの反省を生かして、しっかりと情報を共有し連携を図っていく中で、信頼関係を構築していきたいと思えます。加えて、たくさんの感謝と励ましの言葉をいただきました。また、十分な指導と対応ができていない点もお教えいただきました。頂戴した御意見を真摯に受け止め、全教職員で共通理解を図り、改善していきます。

学校運営協議会委員の所見

- 学校がデータ(根拠)をもとにして、課題をオープンにしてしっかりとその対策を立てている姿勢がよい。

